

一 事業主側

般天側ノ要求事項ハ陛下ノ所ノ経済状態ト船夫統制  
上且ツ關係四傍業者トノ均衡上絶対容認スル不能ト  
シ隨テ廿一日ヨリ總罷業ニ入ルヤ各得意先ニ対シ諒  
解シ取メ他ヨリ備船シ爲シ事業シ経済シ如何ナル長  
期ニ亘ル爭議ニモ対抗スヘシ相當態度強硬ニシテ最  
初ノ嘆難書ニ対シテハ大部分容認シ得ル限リ妥協ス  
、又意圖ナリシニ十九日更ニ新要水書ヲ提出セラレ  
テヨリ頗ニ態度強硬トナリ全員解雇スヘシト稱シ勞  
働者側ヲ介由ノ擧ニ出ラタルハ金シ時期ニ誤リ輕率  
ニ甚敷モノナリトテ船夫側ノ及有テ待テ然レ後警告  
ヲ發シ誠首スル模標ニレニ營業上ハ他ヨリ備船經費

二 労働者側

シ右リ何等又降ナレ  
十九日日本運輸労働組合副団要助外一名船夫代表田  
中務三郎外二名ハ事業主側役員村頭泰ト会見別記新  
要水書ヲ手交セリ然シテ二十日午後一時ヨリ組合側  
同席 樽外四名船夫代表田中務三郎外二名ハ事業主  
ト会見シ要水事項ニ対シテ回答シ取メタルニ勞働者  
ノ最モ重要ナル第三項ヲ拒絶セラレ其ノ促引揚ケ將  
来ノ対策ハ日本運輸労働組合ニ一任スルニトナリ  
廿一日ヨリ至巳日ノ土町四先川筋ハ乗組船十三隻ヲ乗船  
シ第三那通摩船門ニ本部ニ設テ總罷業ニ特リ幕屋  
ノ指導下ニ結束シ回スト云ニ今後ノ対策協議中ナリ